

平成25年度沖縄群島病害虫発生予報第12号(3月予報)

I 3月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	20	20	40
平年並	40	40	40
低い(少ない)	40	40	20

(平成26年2月21日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

地点別の平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島(那覇)	18.9	21.7	16.5	161.4	108.3

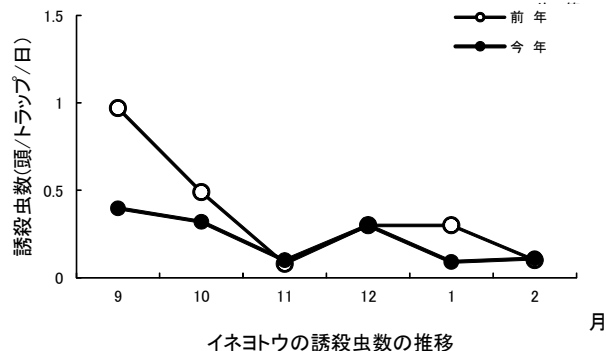
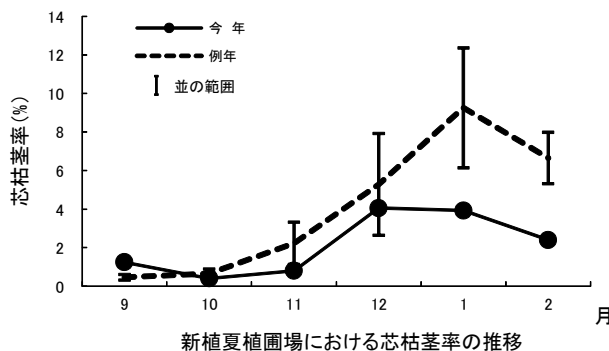
(沖縄気象台発表・統計期間1981～2000・資料年数30年)

II 3月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

○ イネヨトウの防除対策

- a 2月下旬の調査の結果、新植夏植圃場における芯枯茎率は2.4%(前年7.5%、例年6.7%)と例年より低かった。
- b 2月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は0.1頭(前年0.1頭)であった。



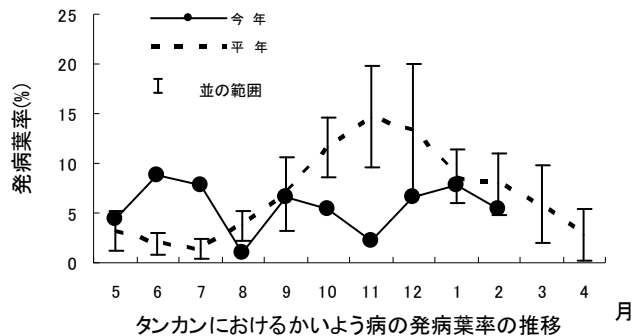
<防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- c 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- d 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- e 植え付け時および培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- f 平成25年度病害虫発生予報第6号(平成25年8月30日付)号コラム参照。

2 タンカン

- (1) かいよう病
発生程度 : 並
予報の根拠

2月下旬の調査の結果、発病葉率は5.6%（前年0%、平年8.0%）と平年並であった。



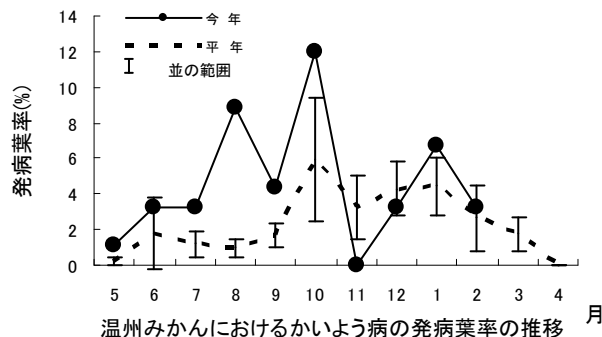
<防除上注意すべき事項>

- 罹病した枝葉は、伝染源となるので除去する。
- 春芽の発芽前後に薬剤による防除を徹底する。
- ミカンハモグリガの穿孔から病原菌が侵入しやすいので、同虫の防除を徹底する。

3 温州みかん

- (1) かいよう病
発生程度 : 並
予報の根拠

2月下旬の調査の結果、発病葉率は3.3%（前年0%、平年2.6%）と平年よりやや高かった。



<防除上注意すべき事項>

タンカンのかいよう病を参照。

3 マンゴー

- 炭疽病の防除対策
 - 2月下旬の調査の結果、発病枝率は7.1%であった。
 - 本病の病原菌は花芽、花序、葉などにすでに潜在感染していることが知られており、収穫果実への被害軽減のため、今後袋がけ前までの防除対策が重要である。
 - 罹病した新梢、残渣は速やかに施設外に持ち出し処分する。
 - 結実期には治癒効果のある薬剤を選定し、定期防除に努める。
 - 平成25年度病害虫発生予報第6号(平成25年11月29日付)号コラム参照。
- チャノキイロアザミウマの防除対策
 - 2月下旬の調査の結果、一部圃場で発生していた。
 - 開花期以降は本種が増加する可能性があるため、早期防除に努める。
 - 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
 - 開花中の圃場では受粉昆虫に影響の少ない薬剤を選択する。
 - 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

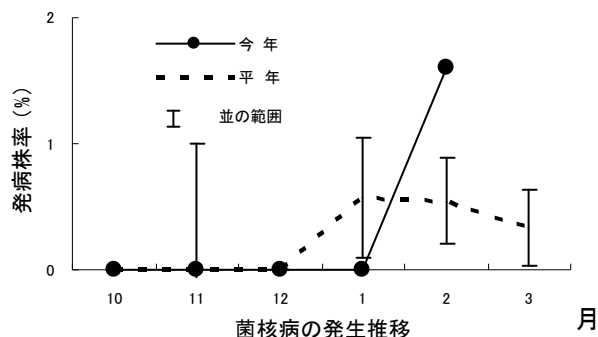
4 レタス

(1) 菌核病

発生程度 : 多

予報の根拠

2月下旬の調査の結果、発病株率は1.6%(前年1.5%、平年0.5%)と平年より高かった。



<防除上注意すべき事項>

- 発病株は菌核を生じないうちに除去し、ビニール袋に入れるなどして密閉処理し、圃場外へ持ち出し処分する。
- 例年発生時期に当たるので、早期防除に努める。
- 平成25年度病害虫発生予察情報第10号1月コラム(平成25年12月27日付)参照。

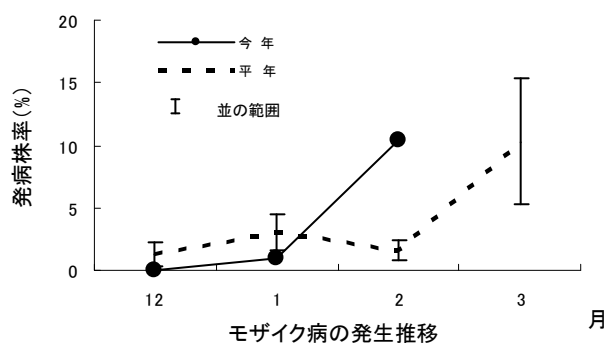
5 かぼちゃ

(1) モザイク病

発生程度 : 多

予報の根拠

2月下旬の調査の結果、モザイク病の発病株率は10.4%(前年0%、平年1.6%)と平年より高かった。



<防除上注意すべき事項>

- 圃場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源になるので除草を行う。
- 発病株は発生源となるので、みつけ次第抜き取りビニール袋に入れるなどして密閉処理し、圃場外へ持ち出し処分する。
- 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。
- 収穫後の残渣は発生源となるので速やかに片づける。

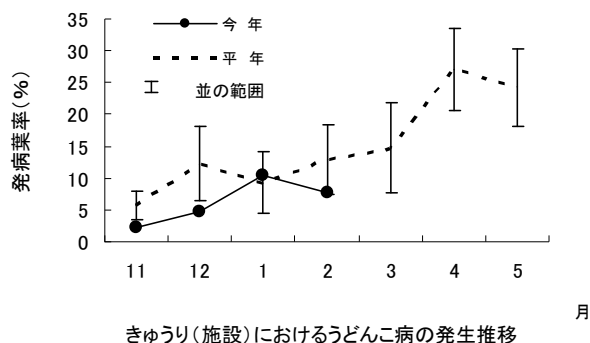
○ うどんこ病の防除対策

- 発生源となる株元の不要な老葉・下葉を除去し、透光通風をよくする。
- 着果期以降、草勢の低下に伴い被害が急激に広がる場合があるので、防除を徹底する。
- 平成25年度病害虫発生予察情報第10号1月コラム(平成25年12月27日付)参照。

6 きゅうり(施設)

- (1) うどんこ病
発生程度 : 並
予報の根拠

3月下旬の調査の結果、発病葉率は7.8%(前年8.8%、平年13.0%)と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

老葉や病葉は発生源となるので、圃場内に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして持ち出し処分し、透光通風を良くする。

- ミナミキイロアザミウマの防除対策
 - a 3月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.15頭(前年0.01頭、平年0.14頭)と平年並であったが一部圃場で発生が多くみられた。
 - b 今後の気温上昇に伴い、本種の発生が増加することが予想される。
 - c 施設開口部には目合いの細かい防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
 - d 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

7 にがうり(施設)

- ミナミキイロアザミウマの防除対策
 - a 3月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.1頭(前年0.1頭、平年0.1頭)と平年並であったが、一部圃場で発生が多くみられた。
 - b 今後の気温上昇に伴い、本種の発生が増加することが予想される。
 - c 施設開口部には目合いの細かい防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
 - d 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。